

# THE GRANPHONIC CONCERT 13th



グランフォニック 第13回定期演奏会  
2015年10月25日(日)  
愛知県芸術劇場コンサートホール

## ごあいさつ

本日はグランフォニック第13回定期演奏会にご来場賜り、誠にありがとうございます。

1998年1月に第1回定期演奏会が名古屋市芸術創造センターで開催されて以来、1年半ごとに定期演奏会を開催し、今回、第13回定期演奏会を開催させていただき運びとなりました。これだけ回を重ねることができましたのは、皆様の温かいご声援の賜物と深く感謝申し上げます。

第1回定期演奏会では29名だったメンバーが、今回は53名となり、団の基本理念である「歌を通じて生きる喜びを感じ、伝える」ために1年半の練習を重ね本日を迎えました。演奏を通じ、我々の想いが少しでも皆様にお届けできましたら幸いです。

今回も、堀口文成先生を総合演出としてお迎えして、4つのステージに挑みます。

最後までどうかお楽しみ下さい。

グランフォニック 団長 石井 清

## 無伴奏男声合唱によるアンソロジー 「月夜」

月夜

詩：堀口 大学  
曲：清水 脩

河童のうた

詩：宮沢 章二  
曲：湯山 昭

普香天子

詩：宮沢 賢治  
曲：清水 脩

月夜を歩く (グランフォニック委嘱・初演)

詩：詩川 貴彦  
曲：橋本 剛

指揮：成田 正人  
導入ピアノ：伊藤 敦子

## 「願い...」

Ave Maria

曲：J.Arcadelt  
編曲：福永 陽一郎

おお、愛しておくれ

詩：F.Freiligrath  
曲：F.Liszt  
編曲：小嶋 聡

献呈

詩：F.Rückert  
曲：R.Schumann  
編曲：佐渡 孝彦

ヒロシマにかける虹

詩：津田 定雄  
曲：新実 徳英

指揮：小嶋 聡  
ピアノ：はやせ ようこ

## 男声合唱のためのカンツォーネメドレー 「この胸の想い」

わが胸を Sento nel core

童 (すみれ) Le Violette

詩 : 不詳

曲 : A.Scarlatti

忘れな草 Non Ti Scordar Di Me

訳詞 : 音羽 たかし・あらかわ ひろし

曲 : E.D.Curtis

マレキアーレ Marechiare

訳詞 : 畑中 良輔・畑中 更予

曲 : P.Tosti

遥かなるサンタルチア Santa Lucia Luntana

訳詞 : 伊庭 孝

曲 : E.A.Mario

ドリゴのセレナーデ Notturmo d'Amore

訳詞 : 鼓 あかね

曲 : R.Drigo

彼女に告げて Dicitencello vuie

訳詞 : 鼓 あかね

曲 : R.Falvo

ヴォラーレ Nel Blu,Dipinto Di Blu

詞 : M.Domenico・M.Francesco

訳詞 : 不詳

曲 : D.Modugno

夢みる想い Non ho L'eta

訳詞 : あらかわ ひろし

曲 : M.Panzeri & P.Nisa

マリア・マリ! Maria,Mari!

訳詞 : 徳永 政太郎

曲 : E.Di.Capua

私の太陽 'O sole mio!

詞 : G.Capullo

訳詞 : 不詳

曲 : E.Di.Capua

編曲・指揮 : 向川原 慎一

ピアノ : はやせ ようこ

クラリネット : つつみ あつき

..... 休 憩 .....

## 音楽物語

### 「銀色のルネサンス」

～鎖のむこうに～

作 : なりたまさと

序 章	報告!
第1章	元はと言えば
第2章	姫君の婚殿
第3章	昔は良かったあ
第4章	隣国の使者
第5章	アンディーム
第6章	選ぶのは?
第7章	錆びた鎖
第8章	銀色のルネサンス
終 章	明日への序曲

指揮 : 成田 正人

ピアノ : はやせ ようこ

電子オルガン : 望月 茜

グランフ王国 女王 : 美口 啓子

グランフ王国 王女 クレオーネ : 加藤 恵利子

隣国オニックの男 パトラーノ : 小嶋 聡

グランフ王国 国務大臣 : 永井 一美

序詞役 : 村上 信

クロスA (Action & Singing) : グランフォニックA組

クロスS (Singing) : グランフォニックS組

総合演出 : 堀口 文成

照明 : 古川 靖 (株若尾総合舞台)

音響 : 吉田 友和

舞台監督 : 大蔵 聡子

## 月夜を歩こう

「月見れば千々にもものこそかなしけれ我が身ひとつの秋にはあらねど」と大江千里が詠んだのは平安時代。黄泉の国からもどったイザナギノミコトが、右目を洗って月の神様ツクヨミノミコトを生んで以来(?)、日本ではお月見をしたり、月齢に合わせた様々な呼び名をつけたりして、ずっと“月の心”に寄り添って来たように思えます。

一方西洋では、地球から約38万kmの彼方にあるこの天体は、どちらかというと思むべきものとして捉えられていた節があります。月は人間を狂気に引き摺り込むとか、妊婦は月を見てはいけないとか、月を見ると狼になってしまう男の話とか。

さて、振り返って我が身はというと、日本的あるいは東洋的な感覚は変わっていないのですが、昔に比べると月との距離が遠くなったような気がします。とんと月を見なくなったというか。最近は、夜道を車でさっさと通り過ぎてしまうか、酔っ払って千鳥足で帰宅するかで、お月さまどころではない。(笑)若い頃は、もっと月を仰ぎながら夜道を歩いていたような気がします。皆様はいかがでしょう。

これではいけない。もう一度お月さまと触れ合っ心潤いを取り戻そうと思い立ち、第1ステージは、《月夜》にまつわる曲を集めてみました。

### 1. 月夜 (曲：清水 脩)

サーカスが跳ね、喧騒が静まった夜更けの街角に、美しきコロンビーヌへの思いを告げることも叶わぬ哀れなピエロが、しおれて佇む冷たい月夜。

男声合唱のバイブルとされる組曲『月光とピエロ』の冒頭の曲で、フランス文学を学んだ堀口大学が、ヴェルレーヌの詩集『艶かしきうたげ』に啓示を受けて書いた詩をテキストにしています。

余談ですが、このヴェルレーヌの詩集には、ピエロはもちろん、花乙女コロンビーヌ、お人好シカサンドル、性悪男アルカン、チルスとアマント等々、サーカスの定番キャラクターたちが登場し、月の光はまさに西洋的な感覚で捉えられています。

本日は、そんなフランスの月夜に合わせて、ドビュッシーの「月の光」の一節を添えてみました。

### 2. 河童のうた (曲：湯山 昭)

人知れぬ山里で、お神酒をカップらってきた河童たちが、酒盛りをしながらバカ騒ぎする月夜。

1969年の合唱コンクール課題曲ですが、「われらのホースもあの月までは、とても届かず無念でござる」という酔っ払いの戯言が、よくぞ採用されたと…

### 3. 普香天子 (曲：清水 脩)

山道で見かけた月を、人生の行く手を照らしてくれる導きの光として、畏敬の念をもって称える月夜。

普香天子とは、法華経序品に出てくる仏法守護の天子で、北上山地の夜間行に出掛けた宮沢賢治は、夜道を照らす月が普香天子そのもののように思われ、思わずこの詩をまとめ上げたそうです。

### 4. 月夜を歩く (曲：橋本 剛)

デートの帰り？素敵な映画を見た帰り？何やら心楽しく、ウキウキと歩を進めさせる優しい月夜。

当団に縁の深い橋本先生にお願いして、“思い出の散策人”詩川貴彦氏の詩に作曲してもらいました。ほのぼのとした詩が、軽やかで優美な曲に乗って踊り出します。もちろん世界初演です。

以上、4つの《月夜》。皆様もそれぞれのシチュエーションに身を置いて、どうぞ私たちとご一緒に、しばし月夜を歩いてみてください。

(成田 正人)

#### ♪『月夜を歩く』初演に寄せて

作曲のイメージが湧くのは、私の場合、五線紙の前でうーんと唸っている時よりも、頭を空っぽにして、美しい風景を見たり、のんびり歩いている時の方が多かったです。この曲が閃いたのも、まさに歩いている時でした。冒頭、ゆっくり、ぽっかりと、浮かび上がる月。それに気づいた詩人は、ちょっとお酒も入っているのか、ついついスキップを踏み始めてしまう…そんな場面を想像しながら聞いていただければ、より楽しんでいただけることと思います。

橋本 剛

※東京藝術大学作曲科、同大学院修士課程作曲専攻修了。奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門優勝、文化庁舞台芸術創作奨励賞管弦楽部門入賞、他。

## 願ひ...

## Ave Maria

この曲で有名な16世紀の作曲家アルカデルトは、ミケランジェロによって描かれた“最後の審判”のある現在のバチカン市国のシスティーナ礼拝堂の楽長を務めています。その頃に多くの楽曲を残していますが、その多くがマドリガーレやシャンソンのような世俗曲であり、実はこの“Ave Maria”も、もとはシャンソンだったのです。後世の人がアルカデルトの曲に手を加え“Ave Maria”が誕生しました。あたかもシスティーナ礼拝堂で16世紀のころから歌われているかのような旋律が、一途な願ひと共にMariaを祝福し、救いを求めます。

## ノクターン「愛の夢」より第3番「おお、愛しておくれ」

19世紀ロマン派の時代において、最も情景豊かなメロディを描いた作曲家のひとりとして挙げられるリスト。ピアノの名手でもありピアノの進化も相まって、現代のピアノリズムを確立したといっても過言ではありません。歌曲をピアノ独奏曲として編曲し直し、そちらの方が有名になることもしばしば。この愛の夢第3番もそんな曲の一つです。いつまでも愛しておくれ、心があたたかく鼓動を続ける限り。あなたに心開く人を、できるかぎり愛してあげておくれ。言葉に気をつけないと、悲しみ立ち去ってしまう... 単純な恋愛の詩ではなく家族、友人への愛、人間への愛としてこの美しいメロディを奏でます。

いまは物質と精神のけじめも  
究極の対立もなく  
互いに普遍者の中に助け合い融合して  
生命の河は流れてゆくのだ  
もはやカルマもゴルゴタの夜もない  
ほくは光り輝く霊となりエネルギーとなって  
青みわたる空のなかに昇華してゆく...  
一陣の風がおこれば  
霊はしたたる水となり涙となって  
くぐり抜ける光に美しい虹を咲かせ  
おお これこそ真の神よりヒロシマにかける救いの虹  
そしてヒロシマの普遍者に応える祈りの虹  
七色に大きく二つの輪をえがき  
いつしか象徴の花に融け合い輝き合っていく

## 歌曲集「ミルテの花」より第1曲「献呈」

シューマンは、リストと並び19世紀を代表するロマン派の作曲家のひとりとして、数多くのロマンティックな歌曲を書いています。その中でも歌曲の年と呼ばれる年があります。1840年、生涯を共にしたクララと結婚した年です。この年には、「ミルテの花」の他に、「詩人の恋」、「リーダークライス」、「女の愛と生涯」などの歌曲集、さらには「流浪の民」も書かれています。クララとの結婚前夜に贈られた「献呈」。君は私の魂だ、喜びであり、そして苦しみでもある... クララの全てを受け入れ、これから生涯共に歩んでゆくことを、シューマンの敬愛したシューベルトの旋律を曲の最後に用いて願ひます。

## 「祈りの虹」より終曲「ヒロシマにかける虹」

敬虔なクリスチャンであり国語教師でもある津田定雄さんによって書かれた長篇叙事詩「ヒロシマにかける虹」、その最後の詩に新実さんによって音楽がつけられました。人間の悪意そのものである“核兵器”を二度と使わせない、人間の最も醜い行動である“戦争”を二度と繰り返させない、決して受け身ではなく意志を持った願ひを、津田さん、新実さんの想い、我々日本人の想い、そして全地球の想いとして歌います。

(小嶋 聡)

## ヒロシマにかける虹 津田定雄

潮の香がしづかに吹きわたると  
まだ冷たいしじまの砂に  
黎明はひたひたとよせてくる  
次第に公園の楠の木は明るく  
見えかくれする記念碑たちはあかく映えて  
ヒロシマはよみがえってくる  
みなぎり昇ってきた八月の太陽は  
もう暗い影絵ばかりをつくりはしない  
水晶のような川底の砂は  
デルタからのぼってきた魚と  
キラキラ光りながら語り合っている  
あやまちは再び繰返してはならない  
とぎすまされたぼくの眼と  
和らぎを求める人々の眼がヒロシマに集まり  
デリ デリ 時を刻んで  
死者の時をまつているのだ

## 男声合唱のためのカンツォーネメドレー 「この胸の思い」

人々の歌う「うた」は原始時代から「ことば」と共に生まれ、意思や祈りを表現し伝達するものとして受け継がれてきました。「うた」こそは人類の宝物であり「歌うこと」が我々の生きている証だと言えます。古代ギリシャから中世の教会音楽を経て、とりわけイタリアは歌の発達が早く、ベル・カント唱法の発祥地であり、そして演劇を伴うオペラの発祥国でもあります。

「カンツォーネ」はイタリア語で広い意味での「歌」ですが、一般的にカンツォーネといえば、イタリア民謡などとして分類されるナポリ地方の歌や、1960年代以降流行った魅力的なポピュラー音楽をさしています。今回のグランフォニックのカンツォーネは、もう少し範囲を広げて「歌」が形式として確立した古典イタリア歌曲から始まり、あとはお客様が良くご存知の懐かしい名曲の数々をメドレーでお贈りします。

全部で11曲あるそれらを順にご紹介すると…

◎はじめてオペラ商業劇場が出来たといわれるのは1637年頃ですが、その半世紀後に活躍したアレッサンドロ・スカルラッティ作曲の「わが胸を・セントネルコーレ」と「堇（すみれ）」という2つの歌曲からスタートです。声楽家を志す人たちが必ず勉強する古典イタリア歌曲の代表曲のひとつです。

◎3曲目からは1800年代後半～1900年代半ばに活躍した作曲家たちの作品、いわば近代イタリア歌曲集というべき歌が続きます。

クルティスの「忘れな草」は名だたるテノール歌手達が熱唱してきた名曲です。

トスティの「マレキアーレ」、マリオの「遙かなるサンタルチア」、ドリゴの「セレナーデ」、これらは何れも、いかにもイタリアらしく海をテーマにしていますが、「遙かなるサンタルチア」は直接愛や恋を歌ったものではなく、サンタルチアの港を別れる寂しさを切々と歌っています。

続いてはファルヴォの「彼女に告げて」という情熱的な曲で、今日のメドレーのクライマックスのひとつです。内容は（夢にまで見るあの人、命をかけて

愛しているのだ、どうか僕に代わってそのことを彼女に告げて欲しい）というものですが、だったら人に頼まず、自分で言えばどうだろうか？と思ったりもしますが如何でしょう。

◎さて、1950年代にサンレモという街で音楽祭が始まり、このコンクールで優秀な成績を獲った曲が世界のポピュラー界を席捲する時代が続きました。今日我々が歌う「ヴォラーレ」は1958年の優勝曲で、アメリカで第1回のグラミー賞を獲得、ミリオンセラーとなりました。切なく愛や恋を取り上げるのではなく、大空を自由に飛びまわろうという極めて明るい曲調で、つい最近もTVコマーシャルで使われていますから、若いお客様もご存知かもしれません。

そして1964年、東京オリンピックの年のサンレモの優勝曲が、ジリオラ・チンクェッティの歌った「夢みる思い」でした。うら若い女の子が初めてのデートを夢見て、胸をときめかせているという内容なのですが、グランフォニックのメンバーが孫娘のような女性の気持ちをどう歌うのか、聴きどころかもしれません。

◎今回はクラリネットとピアノとのアンサンブルを試みました。時にはその低音がズシンとお腹に響き、時にはひょうきんな表情で心をなごませ、また時には悲痛な叫びを耳の奥に届かせる、そんな百面相のような音色が可能なクラリネットとの共演は、様々なカンツォーネの曲の表情をさらに豊かに彩ることになりました。そのクラリネットとピアノの前奏に続いて歌うのはディ・カプア作曲の歌曲「マリア・マリ」です。（愛しさで眠れない夜、僕は路上から君の窓を見上げて、愛の歌を歌うよ）と歌います。

◎最後の曲はもうカンツォーネの代名詞と言ってもいい、ご存知「オーソレミオ・私の太陽」です。どうぞ一緒に口ずさんで頂きたいと思います。

◎これらの「歌」を共通して貫いている〈ほとばしり出る熱い胸の思い〉を感じて頂けたら幸いです。どうぞリラックスしてお楽しみ下さい。

（向川原 慎一）

## 錆びた鎖、見えない鎖

海外へ行って「あなたはナニジンですか？」と訊かれると、「地球人です。」と答えていました。これで大抵は心の距離が縮まります。

普通に暮らしている人たちとの間ではこれで充分コミュニケーションが取れるのに、ここに「国」「団体」「グループ」といった概念が入ってくると、なぜか意地がぶつかり合い、紛争やいさかいが起こるようです。これは人間の性（さが）なのか…

わがシナリオ書きも、この作品で23本目になりましたが、また恐れていたことが現実になってしまいました。

アンドロイドを扱った第11回の『エリーの青春』の時に、人型ロボットの実用化が話題になったのは良いトピックスとしても、環境破壊を隠しテーマにした第10回の『太郎の愛』を書き終えた後に東日本大震災が起り、国際紛争を隠しテーマのひとつとした今回は、シナリオを書き終えて間もなく中東で不幸な出来事が起こりました。なんと隣国の使者が囚われの身になるシーンの作曲を終えた直後に。

一方で、このところ一衣帯水の国々とギクシャクしていますし、直近では、国を護るための法律が議論されてもいますので、誤解を避けるために、この作品を取り下げるべきかとも迷いました。

でも、こんな世情だからこそ、「錆びた鎖を断ち切り、古びた鎧を脱ぎ捨てよう」と訴えかけることが必要なのではないかと思直しました。「争いは無益な事、憎しみからは何も生まれない」…クレオーネの歌う言葉の重さが、改めて感じられる昨今です。

とは言え、本来この作品は、題名の通り《シルバーエイジへの応援歌》として書きました。国際間のケンカも一大事ですが、シルバーエイジの生き方も大事。とにかく、おやじギャグを楽しみながら、高齢化社会を明るく笑い飛ばして生きて行こうというものです。

「前を向こう、自信を持って。自分の歴史、誇りとしよう」…心豊かな人生を送るうえで、社会全般あるいは自分の心を縛り付けている見えない鎖。こちらの方も「錆びた鎖を断ち切り、古びた鎧を脱ぎ捨てる」ことが大切なのではないかと強く思います。節目の年齢を超えて、“老いの境地”に引き摺り込ま

れそうな自分自身に対しての叱咤激励も含めて。

今回のシナリオについて、演出の堀口文成先生から貴重な助言や示唆をたくさん頂戴しました。前回までと違い、音楽作りに掛かる前に、演出プランを共有しながらシナリオの推敲ができたことで、作品の完成度が随分増したと感じています。この場をお借りして、心から感謝の意を表したいと思います。

尚、全編を通じて「シーレーラース」のモチーフが繰り返し重用されますが、これもシャレのひとつです。もうお分かりですね。『銀色のルネサンス』の英語名『The Silver Renaissance』の頭文字「Si-Reレ」と、銀の化学記号「Ag：A=ラ、G=ソ」の組み合わせなのです。

この作品もこれまで同様、老若男女すべての方々の《生きるエネルギー》となってくれたなら、これほどの幸せはありません。

(なりた まさと)

### ♪『銀色のルネサンス』あらすじ

かつて豊かで美しかった国が、隣の国と争いを繰り返すうちに、若者が減り、少子化が進んで、もはや老人ばかりの国になってしまいました。これがグランフ王国です。今回のオリジナル音楽物語は、この憐れな王国を舞台に展開されます。

王も王子も戦死してしまい、残された女王が国を立て直そうと奮闘していますが、重鎮であるべき国務大臣もなにやら頼りなさそうで。数少ない若者たちは、将来に希望を持たず独身のまま。遂に出生率が0.5人を割ってしまい、このままでは国が減びてしまう。

とにかく子どもを増やさねばと、クレオーネ姫に婿を迎え、ご成婚祝賀ムードを盛り上げて若者たちを結婚させようと画策しますが、姫は拒否。そこへ隣のオニック国から、仲直りのための使者がやってきますが、こちらは女王が拒否。使者を捕えて牢獄に入れてしまい、死刑を宣告します。

はてさて、こんなグランフ王国に未来はあるのでしょうか…

# PROFIL



**堀口 文成** 総合演出  
*Horiguchi Fuminari*

舞台俳優としてデビューし、舞台活動の傍らTVドラマ等に出演。その後、演出家としてフリーになり、演劇・オペラ・ミュージカル等の演出を数多く手掛けてきた。ショートミュージカルを多数企画しており、コンサート形式の演出でもクラシックからポピュラーまで幅広く活動。また、西日本を中心に行政・企業のイベント演出も手掛けている。

最近、オペラの翻案に力を入れ「フィガロの結婚」（江戸版）、「コシ・ファン・トゥッテ」（現代版）「ヘンゼルとグレーテル」（現代版）を上演。

グランフォニックの演出は今回で4回目となる。

主な演出作品：オペラ「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「ヘンゼルとグレーテル」「カルメン」「トゥーランドット」「蝶々夫人」「魔笛」「天国と地獄」他。ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」「ウエストサイド物語」他。イベント「瀬戸大橋落成記念フェスティバル（岡山）」「坂本龍馬誕生150年祭（高知）」「ロス・オリンピック前夜祭（ロサンゼルス）」他。



**向川原 慎一** 指揮  
*Mukaigawara Shin-ichi*

早稲田大学卒業。現在「グランフォニック」をはじめとして、7団体の合唱指揮・指導、文化センター講師を担当。

今年8月には全日本合唱コンクール愛知県大会の審査員を務める。

指導している団体用の編曲のみならず、特殊な編成や事情に合わせた依頼による室内楽や合唱の編曲多数。

また歌曲を中心とした作曲活動を続け、2007年の奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門（中田喜直賞の部）では谷川俊太郎の詩「はる」に作曲した作品が最優秀賞を受ける。

小林研一郎氏に師事。



**成田 正人** 指揮  
*Narita Masato*

グランフォニック創設メンバーの一人。

慶應義塾大学在学中、木下保氏、畑中良輔氏らの薫陶を受け、指揮法を伊藤栄一氏に師事。学生時代より合唱指揮の傍ら作詞・作曲・編曲に勤しみ現在に至る。

編曲モノは数知れず、《生きるエネルギー》をお届けしたいと、シナリオ起こしから作曲まで自ら手掛ける音楽物語形式の作品も多数。代表作に『子犬のチロの物語』や“愛の三部作”『パパの子守歌』『絵描きと少年』『不破白人の恋』、華音の会委嘱作『歌うは愛する人のわざ』、盲導犬支援団体委嘱作『ハーネスで握手!』、常滑音楽祭委嘱作『ブチ・ハラハの謎』等々。

交声合唱団ミューザヴォーチェ指揮者。上海グリークラブ名誉指揮者。

E



**小嶋 聡** 指揮  
Kojima Satoshi

千葉県出身。幼少よりピアノを始め、主に歌とヴァイオリンの伴奏を独学で学ぶ。大学進学後、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団に入団。畑中良輔、大久保昭男、北村協一、綱川立彦、佐藤正浩各先生に薫陶を受ける。大学合唱の傍ら、慶應義塾中等部コーラス部を指導し、自身が中等部生のために編曲した、ミュージカル「レ・ミゼラブル」などを指揮。今でも後進の育成に努めている。また、自らオーケストラ・合唱を主宰し、演奏会で披露、好評を博す。指揮を角田鋼亮氏に師事。



**加藤 恵利子** ソプラノ  
Katoh Eriko

名古屋音楽大学声楽学科卒業。名古屋市新進演奏家紹介コンサート優秀賞受賞。(社)日本歌曲振興会日本歌曲コンクール声楽部門入選。

これまでに創作オペラやオペレッタ『こうもり』(アデーレ)『伯爵令嬢マリツァ』(リーザ)、ミュージカル『シンデレラ』(メイジー王妃)等の他、宗教曲のソリストをつとめる。

また徳川園や名古屋市東山荘等での日本の歌ソロコンサートにも出演。

声楽を伊藤晶子、美口啓子の両氏に師事。(社)日本歌曲振興会会員。

Blog 加藤恵利子『うた、恋ふれば・・・』を公開中。



**美口 啓子** ソプラノ  
Biguchi Keiko

名古屋音楽大学声楽学科卒業。在学中から現在に至るまで伊藤晶子氏に師事。

日本歌曲の素晴らしさに魅せられ、美しい日本語と響きの豊かさを中心に活動。

これまでに名古屋オペラ協会公演【春琴抄】【じゅごんの子守歌】などに、またスタジオあいの会では【聖母マリアの月】など数多くのオペラに出演。最近では新作歌曲や新作オペレッタにも積極的に取り組む。

また、合唱指揮者として長年、多数の合唱団を指導しており、児童合唱団 We Are ONEでは今夏、東山動物園ナイトZOOのオープニング演奏にて沢山の方々から好評を頂く。

また名古屋市小中学校音楽指導研修会にて講師を務めている。

現在、一般社団法人 日本歌曲振興会会員、スタジオあいの会会員。守山区在住。



**つつみ あつき** クラリネット  
Tsutsumi Atsuki

オーストリア国立ウィーン舞台芸術音楽大学留学。帰国後、ウィーン国立歌劇場日本公演、NHK FM「フレッシュコンサート」等に出演。

名古屋市民芸術祭参加公演開催。名古屋国際室内楽フェスティバル、国際クラリネットフェスティバル等に出演。

2006年より「つつみあつき・クラリネット・コンサート」を連続開催中。(財)愛銀教育財団より文化活動助成を受ける。

2014年9月、韓国釜山マル国際音楽祭にて招聘を受け演奏。TSM主宰。JWE吹奏楽団楽長。モック木管五重奏団、ヘッセントリオ代表。

MiAメンバー。日本演奏連盟会員。平成25年度名古屋市芸術奨励賞を受賞。



はやせ ようこ ピアノ  
Hayase Yohko

愛知教育大学音楽科卒業、同大学院修了。

在学中より、名古屋二期会、名古屋オペラ協会、名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団、三重オペラ協会、岐阜県産業文化振興事業団、名古屋芸術大学、長久手オペラレクチャーコンサートなどで多数のオペラ、オペレッタ、ミュージカルの稽古ピアニスト、コレペティトゥーア、ピアノ公演ピアニストを務める。

伴奏ピアニストとして活動する傍ら、コーラス指導も手がける。また名古屋芸術大学では長年にわたり、オペラの授業助手を担当している。

グランフォニックとは、2002年の第4回定期演奏会以来10回連続の協演。



望月 茜 エレクトーン  
Mochiduki Akane

愛知県出身。

鷹野雅史氏、伊藤英子氏に師事。

4歳より電子オルガンを学び、現在、名古屋芸術大学 音楽学部 演奏学科 電子オルガンコースに在学中。

Christopher Brooks氏に師事し、ゴスペルミュージックにも取り組み始める。

2015年、豊橋市のんほいパーク内自然史博物館テーマ曲を作曲提供。

ポップス、フュージョン系の自作曲をメインに、映画音楽や年齢層にとらわれない楽曲にも積極的に取り組み、パワフルで笑顔溢れるステージを繰り広げる。



末吉 利行 ボイストレーナー  
Sueyoshi Toshiyuki

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修了。声楽を畑中良輔、平野忠彦、田中万美子、河合武彰の諸氏に師事。

第25回ジローオペラ賞、新人賞を受賞。バッハの受難曲をはじめ「天地創造」、「四季」、「メサイア」、「荘厳ミサ曲」、「エリア」、「レクイエム」、「ドイツ・レクイエム」など数多くの宗教曲および「第九」の演奏で高い評価を得ている。

オペラでは「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールをはじめ「フィガロの結婚」、「魔笛」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「カルメン」、「椿姫」など多くのレパートリーを持つ。

名古屋NHK文化センターにおいて「声楽実践講座」を開講中。

愛知県立芸術大学教授。洗足学園音楽大学非常勤講師。二期会会員、青の会会員。

## THE GRANPHONIC

### グランフォニック

今ステージに立っている男達には最大50歳の年齢差がある。50年って、歴史の教科書では何ページ分になるのだろう。しかし、その隔たりはこの男たちが紡ぎ出す音楽に、計りしれない幅と深みを与えてくれる。人生経験に違いはあれど、今日この日にかかる熱い思いは変わらない。夜空の月を色とりどりに描き、人々の願いを無垢な心で音に託す。かと思えば、情熱の国・イタリアのちょい悪おやじを気取り、最後は自虐ネタを交えながら前を向いて生き抜くことを高らかに歌い上げる。この男達の日常を知る人々は、今ステージで輝いている彼らとのギャップに驚いているかもしれない。だらしのない恰好で家の中を彷徨う男、アイドルグループの口パクに「音楽を侮辱している」とテレビに毒づく男、「昔はもててモテテ」と平気で自分史を改ざんする男。が、ひとたび「グランフォニック」で歌い出すと、男達は見事に再生するのである。これを「ルネサンス」と呼ばずしてなんと呼ぼう。

しかし、「ルネサンス」は決して勝手には起こり得ない。そこには男達の人知れぬ努力がある。地味な発声練習にも愚痴をこぼさず、ボイストレーナーや演出家の厳しい指導にも耐えて来た。指揮者からの再三のダメ出しには、必死の自主練習で応えてきた。全曲暗譜という血の掟は究極の脳トレと割り切って、ただひたすら今日この日の「ルネサンス」を成し遂げるために男達はくじけそうな自分と戦ってきた。定期演奏会ごとに繰り返されてきたこの「ルネサンス」のプロセスは、二十有余年の時の流

れの中で次第に進化していった。それを支え導いてくださった音楽や演出の先生方、伴奏者の方々、客演の方々、ステージスタッフの方々、そして今日も足を運んでくださったグラマニアの皆様方すべてに感謝の気持ちを込めて、男達は持てる力の限り歌う。これからも「生きる喜び」をエネルギーとして歌い続けるであろうこの男達に、変わらぬエールを送って欲しい。



THE GRANPHONIC *T*<sup>1</sup>

佐々木正義	三ツ松 平	鹿住 誠
伊藤 高潤	小林 武	鈴木 英孝
浅井 裕之	黒岩 実	小宮 俊英
榎本 真丈	石川 周二	高津 眞司
高橋 淳一	中川 暢	丸山 武夫

THE GRANPHONIC *B*<sup>1</sup>

黒田 泰男	永井 一美	神田 久嗣
細江太喜雄	伊藤 慎二	寺島 正晃
水野 邦明	安田 俊哉	芝木 昌一
天野 浩	鈴木 清次	近藤 峯生
荒田 武		

THE GRANPHONIC *T*<sup>2</sup>

柴田 道昭	三ツ口勝弥	石井 清
成田 正人	森重 雅夫	間瀬 譲
飯田 公男	中村 嘉夫	松浦 治徳
河内 幸雄	大村 元	松永 鐘治

THE GRANPHONIC *B*<sup>2</sup>

井ノ口貴敏	浅井 良之	外村 俊夫
松原 成憲	犬塚 弘道	小嶋 聡
鈴木 秀樹	成井 詔彦	木村 文隆
村上 信	脇田 敏和	渡邊 該
長谷川利孝		

# THE GRANPHONIC CONCERT 13th

グランフォニック 第13回定期演奏会

団長 石井 清  
幹事長 間瀬 譲  
幹事 松浦 治徳  
〃 村上 信  
〃 伊藤 慎二  
〃 木村 文隆

パート総務

(T 1) 石川 周二  
(T 2) 河内 幸雄  
(B 1) 水野 邦明  
(B 2) 鈴木 秀樹

音楽スタッフ

指揮者 成田 正人  
副指揮者 神田 久嗣  
〃 小嶋 聡

パートリーダー

(T 1) 高津 眞司  
(T 2) 間瀬 譲 (兼)  
(B 1) 神田 久嗣 (兼)  
(B 2) 浅井 良之

名誉団員・指揮者 向川原 慎一

グランフォニックでは仲間を募集しています。

【練習日】 毎週水曜日 19:00~21:15 (月1回土曜又は日曜日)

【練習会場】 名古屋市音楽プラザ(金山) 他

【団費】 月額3,000円

【お問い合わせ】

グランフォニック

検索

<http://www.granphonic.com>

# THE GRANPHONIC CONCERT 13th

グランフォニック第13回定期演奏会 「愛、そして願い・・・」

## 1st stage

無伴奏男声合唱によるアンソロジー「月夜」

月夜 河童のうた 普香天子 月夜を歩く

指揮：成田 正人

## 2nd stage

「願い・・・」

アヴェ・マリア 愛の夢より 第3番 献呈 ヒロシマにかける虹

指揮：小嶋 聡

ピアノ：はやせ ようこ

## 3rd stage

男声合唱のためのカンツォーネメドレー「この胸の想い」

編曲・指揮：向川原 慎一

ピアノ：はやせ ようこ

クラリネット：つつみ あつき

## 4th stage

音楽物語「銀色のルネサンス」～鎖のむこうに～

作：なりたまさと

指揮：成田 正人

ピアノ：はやせ ようこ

電子オルガン：望月 茜

グランフ王国 女王：美口 啓子

グランフ王国 王女クレオーネ：加藤 恵利子

隣国オニックの男 パトラーム：小嶋 聡

グランフ王国 国務大臣：永井 一美

序詞役：村上 信

クロスA (Action & Singing)：グランフォニックA組

クロスS (Singing)：グランフォニックS組

総合演出：堀口 文成

照明：古川 靖 (榊若尾総合舞台)

音響：吉田 友和

舞台監督：大蔵 聡子

演出助手：辻 雅滋

2015  
10.25 (日)

5:00pm開演(4:30pm開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

指定席：2,500円 自由席：1,500円

お問い合わせ：石井 tel:090-6077-4795  
THE GRANPHONIC <http://www.granphonic.com>